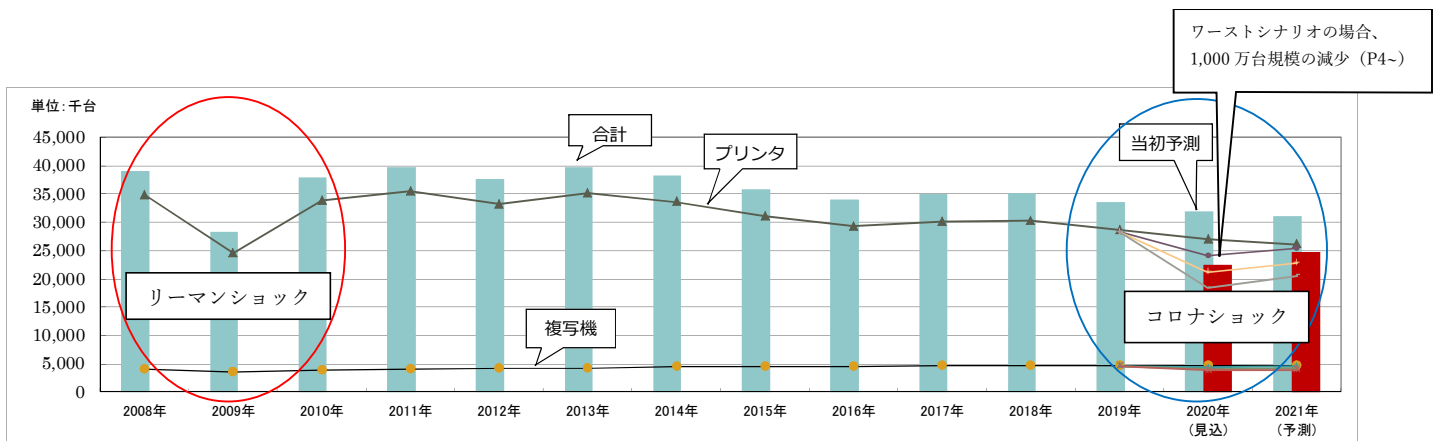


調査報告書

〔2020年版緊急レポート（コロナショックと業界大規模再編）〕

『業界再編とコロナショック に揺れる事務機業界の 地域別メーカー別分析』

=コロナショックにより失われる市場はいかなる規模となるのか
さらに今後の業界再編は？日本メーカーへの影響は？=



2020年4月



〈調査概要〉

I. 調査テーマ

【2020年版緊急レポート（コロナショックと業界大規模再編）】

『業界再編とコロナショックに揺れる事務機業界の地域別メーカー別分析』

＝コロナショックにより失われる市場はいかなる規模となるのか

さらに今後の業界再編は？日本メーカーへの影響は？＝

II. 調査主旨

中国湖北省武漢市を発生源とする新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的感染は想定を上回る規模で拡大を続けている。欧州や米国の感染者数はいわゆるオーバーシュートと呼ばれる爆発的な感染拡大の傾向を示しており、イタリア、スペイン、フランス、英国の欧州主要国や米国の多くの州が感染拡大への防御策としてロックダウン（都市封鎖＝外出禁止や店舗閉鎖など）の措置を採っているが、未だ収束の気配はない。

事務機業界にも様々な影響が広がっている。もともと今回の COVID-19 は中国拠点を中心としたサプライチェーンへの影響が懸念されていたが、感染拡大により欧米の主要国がロックダウンしたことで、もはやサプライチェーンの問題を飛び越えて、事務機マーケットそのものが崖っぷちに立たされているのではないかとの見方すらも出てきている。欧米経済が完全停止した現在においては、4月以降の大規模な本体在庫調整は避けられない。さらに先進主要国の大半の企業がリモートワークを取り入れ、オフィスが無人化したことで事務機業界の利益の源泉となっている消耗品（トナー）ボリュームが大きな減少に晒されることも確実である。

そして、事務機業界ではこのコロナショックに加え、業界再編の機運も高まっている。富士ゼロックスと米ゼロックスは2021年3月末をもって「技術契約（Technology Agreement）」を終了することを決定し、両社の60年弱に及ぶ密接なパートナー関係に終止符が打たれる。また、HPはそのプリンタラインアップにおいてHP Printing Korea（旧サムスン）エンジンの採用を拡大しており、こちらも長年の提携関係にあるキヤノンとの関係は変化の時を迎えている。また、米ゼロックスが仕掛けていたHP株のTOBは、結局、コロナショックにより断念に追い込まれたが、成熟化の加速する事務機市場において、各社の生き残りをかけた様々な連携の動きは今後加速していく。

今回のレポートは、このようなコロナショックと業界再編により事務機業界がどのように変化していくかを考察していくものである。コロナショックで甚大な被害を受けているイタリアやフランスなどの欧州各国市場と米国や中国などの各国・各地域別の市場動向（台数、カラー比率、メーカーシェアなど）を分析し、2020年がどのような出荷を辿るのか、リーマンショック時との比較も交え、想定されるいくつかの予測を試みました。また各社の本体や主要部材についてのサプライチェーンについても概説しています。そして業界再編においては、現状のOEM・提携関係の分析と今後の再編シナリオについて独自の分析を行いました。

事務機業界にとって今後数年は未曾有の混乱状態が続くことが予想される。減速する市場のなかで発想の転換や生き残る知恵が必要となる。このレポートが、関係各社にとって有用なものであることを期待いたします。

Ⅲ. 調査対象品目及び調査対象先

1. 調査対象品目

- 1) 複写機・複合機(A3/A4) (モノクロ/カラー)
- 2) レーザー(LED)プリンタ/複合機(A3/A4) (モノクロ/カラー)
- 3) トナー、感光体、ローラー

2. 調査対象先

ハードウェアメーカー/ベンダー

キヤノン/リコー/富士ゼロックス/米ゼロックス/コニカミノルタ/シャープ/
京セラドキュメントソリューションズ/東芝テック/ブラザー工業/沖データ/
HP(HPPK)/レックスマーク/Pantum

Ⅳ. 調査範囲及び調査方法

1. 調査範囲

調査対象範囲は2008年～2021年(国別は2017年～2021年)
対象範囲は日本、北米、欧州(英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ロシア、他)、
中国、その他地域(インド、インドネシア、ブラジル、他)とする。

2. 調査方法

- 1) 弊社に蓄積されているデータの活用
- 2) 公開されている文献、資料、統計などの分析及び調査

Ⅴ. 調査形態、調査期間、他

1. 調査形態

本調査はマルチクライアント方式による調査である。

2. 調査期間

2020年3月～4月

3. 調査報告書刊行日

2020年4月24日

4. 提出報告書

A4判ワープロ製本

5. 価格

300,000円(消費税別途)

6. 調査担当

山本 幸男/吉田 晃介/針生 正史

(TEL: 03-3831-9201、FAX: 03-3831-9204、

E-mail: yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp)

ホームページ: <http://www.datasupply.jp/>

7. 申込方法

担当者まで、メール、FAX、電話等にて御連絡下さい。

《目 次》

A. 新型コロナウイルスによる事務機業界への影響	
A-1. 分析編	1
1. 全世界における複写機・プリンタ関連製品の出荷推移	1
1) ハードウェアの出荷推移 (2008~2021年)	1
2) 消耗品の出荷推移 (2008~2021年)	2
(1) トナー (2) 感光体	
3) 2020年以降の予測シナリオ (リーマンショックとの比較)	4
3) - 1. ハードウェア	4
(1) 全体 (2) 複写機 (3) プリンタ (4) リーマンショックについて	9
3) - 2. 消耗品	10
(1) 用途別トナー生産量の推移 (当初予測) (2) 用途別感光体生産量の推移 (当初予測)	
3) - 3. ソリューションビジネス (コロナショック後のビジネス展開)	12
(1) 概要 (2) 各社の状況 (3) ソリューション商品の重要性の高まり	
(4) ソリューション商品での差別化 (5) 各社のソリューション概要 (6) まとめ	
4) 各種データの比較	16
4) - 1. カラー・モノクロ比率 (2019年実績と今後の影響)	16
(1) 複写機 (2) プリンタ	
4) - 2. 製品別スピード別比率 (2019年実績と今後の影響)	17
(1) 複写機 (2) プリンタ	
4) - 3. エンジンメーカーシェア (2019年実績と今後の影響)	19
(1) 複写機 (2) プリンタ	
2. 地域別の本体出荷台数予測	21
2-1. 地域別全体 (2008~2021年)	21
2-2. 地域別のハードウェア出荷台数の推移	22
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>■ 共通調査項目 ■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェアの出荷推移 (2008~2021年) ・2020年以降の予測シナリオ (リーマンショックとの比較) (全体/複写機/プリンタ) ・各種データの比較 (2019年実績と今後の影響) (複写機/プリンタ) <li style="padding-left: 40px;">カラー・モノクロ別スピード別比率/エンジンメーカーシェア </div>	
[1] 日本 [2] 北米 [3] 欧州: [3] - 1. 欧州全体 [3] - 2. 欧州の主要国	
[3] - 2 - 1. 英国 [3] - 2 - 2. フランス [3] - 2 - 3. ドイツ	
[3] - 2 - 4. イタリア [3] - 2 - 5. スペイン [3] - 2 - 6. ロシア	
[4] 中国 [5] その他地域: [5] - 1. その他地域全体 [5] - 2. その他地域の主要国	
: [5] - 2 - 1. インド [5] - 2 - 2. インドネシア [5] - 2 - 3. ブラジル	
3. サプライチェーン	140
1) 本体生産の中国依存度	140
(1) 複写機・複合機 (2) レーザー/LED プリンタ	
2) 部材調達の中国依存度	142
(1) ローラー系部品 (2) トナー: (2) - 1. 純正品 (2) - 2. サードパーティ	
(3) 感光体: (3) - 1. 純正品 (3) - 2. サードパーティ	
3) 主要メーカーの生産拠点一覧	147
3) - 1. ハードメーカー 3) - 2. トナー関連メーカー	
3) - 3. 感光体関連メーカー 3) - 4. ローラー関連メーカー	
<参考データ>全世界・地域別の新型コロナウイルス累計感染者数	156

A-2. 個別メーカー編 157

■ 共通調査項目 ■

- ・ 本体出荷動向
- ・ ハードウェアの出荷推移 (2017~2021年)
- ・ 2020年以降の予測シナリオ (全体/複写機/プリンタ)
- ・ 地域別出荷比率 (2019年実績と今後の影響) (複写機/プリンタ)
- ・ カラー・モノクロ比率 (2019年実績と今後の影響) (複写機/プリンタ)
- ・ 生産拠点動向: 最新動向/生産拠点一覧

- [1] キヤノン [2] リコー [3] 富士ゼロックス [4] コニカミノルタ
 [5] 京セラドキュメントソリューションズ [6] シャープ [7] 東芝テック
 [8] HP Printing Korea [9] ブラザー工業 [10] 沖データ [11] Lexmark

B. 事務機業界の再編動向

B-1. 業界再編の可能性について 219

1. 総論 219

2. 製品売り上げへのインパクト推定 219

3. 企業におけるポートフォリオ上の位置付け 220

B-2. 現在の複写機・プリンタの供給、販売の関係図 (業界全体) 222

■ 共通調査項目 ■

- ・ 概要
- ・ オフィス分野の製品ラインアップ (自社開発か外部購入か)

- 【1】 HP 【2】 キヤノン 【3】 リコー 【4】 富士ゼロックス 【5】 米ゼロックス
 【6】 コニカミノルタ 【7】 京セラドキュメントソリューションズ 【8】 シャープ
 【9】 東芝テック 【10】 ブラザー工業 【11】 沖データ
 【12】 Ninestar (レックスマーク&Pantum)

B-3. 米ゼロックスのハードウェア調達戦略について 234

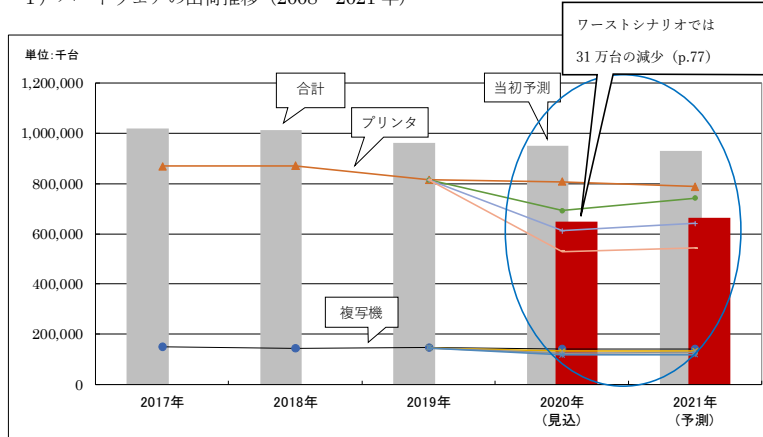
B-4. HPのハードウェア調達戦略について 237

B-5. 今後の業界再編 239

サンプルページ

[3] - 2-4. イタリア

1) ハードウェアの出荷推移 (2008~2021年)



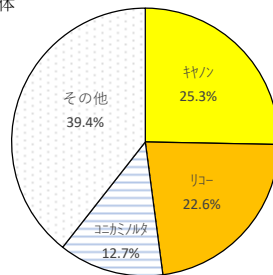
	2017年	2018年	2019年	2020年 (見込)	2021年 (予測)
モノクロ	66				
カラー	83				
複写機	149				
対前年比					
モノクロ	736				
カラー	133				
プリンタ	869				
対前年比					
合計	1,018				
対前年比					

2019年におけるイタリア市場は81.5万台、合計96.2万台。規模は英国やフランスより少ない。2020年の当初予測における見込は、欧州では最初にロックダウンの措置がとられており、複写機・プリンタの両方ともに前年から31.4万台減の

3) - 3. エンジンメーカーシェア (2019年実績と今後の影響)

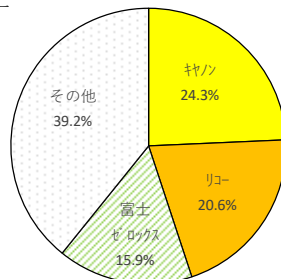
(1) 複写機

①全体



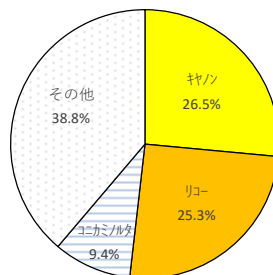
北米の複写機市場においては、キヤノン、リコー、コニカミノルタがトップ3。ニューヨークなどの主要都市がロックダウンの措置を採っており、2020年の案件にも大きな影響が出てくるとみられる。

②カラー



カラーMFPでは、キヤノン、リコー、富士ゼロックス (米ゼロックスへのOEM) がトップ3。3社で全体の60%強を占めており、これら大手の販売台数に影響が出る。

③モノクロ



モノクロMFPでは、キヤノンとリコーの2社で全体の過半数を占める。コニカミノルタがこれに続く。前述の通り、先進国の中ではモノクロ機比率の高い市場であり、販売停滞の影響は大きい。

サンプルページ

3) 主要メーカーの生産拠点一覧

3) -1. ハードメーカー

MFP (複写機)、LBP(LED)、PP(プロダクションプリンタ)

メーカー	工場名	国	所在地1	所在地2	設立年(稼働年)	生産品目								備考	
						本体			消耗品			その他			
						MFP	LBP	PP	トナー	感熱体	トナー	ローラー	給		
キヤノン	取手事業所	日本	茨城県	取手市	1961										PPの本体生産、MFPのユニット生産など
	キヤノン電子 赤城事業所	日本	群馬県	利根郡	1999		○								LBPの生産、生産量は極少量
	キヤノン電子 栗里事業所	日本	埼玉県	栗玉郡	1984										スキヤノユニットの生産拠点
	キヤノンフインテックニスカ 常総事業所	日本	茨城県	常総市	1953										フインテック関係の生産拠点
	キヤノンフインテックニスカ 常陸事業所	日本	山梨県	南巨摩郡	1960										フインテック関係の生産拠点
	キヤノンフインテックニスカ 北和徳事業所	日本	青森県	五戸市	1952					○	○				カートリッジの主力拠点
	キヤノンフインテックニスカ 北和徳第二事業所	日本	青森県	弘前市						○	○				カートリッジの主力拠点
	キヤノン化成 炭酸工場	日本	茨城県	つくば市	1950					○	○	○			カートリッジの主力拠点
	キヤノン化成 岩間工場	日本	茨城県	笠間市	1950					○	○	○			カートリッジ用部品の内製拠点
	キヤノンコーポレーション	日本	埼玉県	厚毛郡	1984										スキヤノ用ICISの生産拠点
	大分キヤノンマテリアル 梓葉事業所	日本	大分県	梓葉市	1998										トナーカートリッジは生産終了。カートリッジのみ
	大分キヤノンマテリアル 大分事業所	日本	大分県	大分市	2007					○	○				カートリッジの最大拠点
	長浜キヤノン	日本	滋賀県	長浜市	1988		○			○	○	○			OPC及(Fa)S感光体、ベルトなどを生産
	上野キヤノンマテリアル	日本	三重県	伊賀市	2002										カートナー(粉砕法)の主力拠点
	福井キヤノンマテリアル	日本	福井県	福井市	2017										OPC用のCTMの生産拠点
	キヤノンエレクトロニクスインダストリー	日本	茨城県	坂東市	2004										リサイクル拠点
	キヤノンホーム	日本	茨城県	笠間市	1969										複合/フラッシュ/金型等の製造
	トップ事務機	日本	滋賀県	長浜市	1966										リサイクル拠点
	キヤノンフインテックニスカ(深理)	中国	広東省	深圳市	1993										以前はA3モノクロを生産、現在はフインテックなどのみ
	キヤノン大連事務機	中国	遼寧省	大連市	1989					○	○				カートリッジ、感光体を生産
キヤノン(中山)事務機	中国	広東省	中山市	2001			○							LBPの主力生産拠点	
Canon Korea Business Solutions	韓国	ソウル市		1985			○							LBP、FAXなどの生産拠点	
Canon Vietnam	ベトナム	ハノイ市		2001			○							モノクロ、LBPの主力生産拠点	

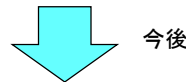
B-3. 米ゼロックスのハードウェア調達戦略について

米ゼロックスの動向はMFP市場での競争において無視はできない。新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、HPに対する買取提案を取り下げたが、米ゼロックスのビジネスポートフォリオにハードウェアの開発を外部に依存しているという課題が存在していることは明らかであり、今後についてはいくつかのシナリオが想定できる。

<現状のエンジン調達状況>

(赤字: 自社開発 青字: 外部購入 ()内は出力速度=ppm)

F19	B&W		Color	
	A3	A4	A3	A4
高速	FX(100-136)	投入なし	FX (20-70)	投入なし
中速	自社開発 (45-90)	FX (47-63)		FX (28-53)
低速	FX (25-35)	HPPK (30-40)		
	HPPK (22/25)	投入なし		投入なし



<シナリオ1: 富士ゼロックスからの製品(メインレンジ)調達を継続>

メリット	<ul style="list-style-type: none"> 米ゼロックスは富士ゼロックスとの契約解消の際に、今後5年間は両社間の製品調達契約を継続することを決定した。 これまでと同じ調達・販売体制を維持することでビジネスの継続性を担保でき、消耗品などの需要予測も立てやすい。 米国と欧州にあるトナーの生産設備もこれまで通りに活用できる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 米ゼロックスと富士ゼロックスは資本関係がなくなり、技術契約やブランドライセンス契約も解消することが決まった。このような両社の関係性の変化に伴い、調達コストが大幅にアップすることは確実となる(これまでは富士ゼロックスは米ゼロックスに対して破格のコストで複合機やプリンタのエンジンを供給してきた)。

株式会社データ・サプライ刊行物案内／申込書

（刊行日・価格の変更があります）

住所：〒110-0005 東京都台東区上野6-6-1 舶来堂ビル5F
 TEL：03（3831）9201、FAX：03（3831）9204
 E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp
 ホームページ：http://www.datasupply.jp/

- 以下の枠内にご記入いただき、下表のご希望の調査資料に希望部数、金額をご記入ください。最短で翌日（部数、地域による）に到着するように発送いたします。
- 申込はメール、FAX、郵送のいずれでも可能です。申込と同時に現物と請求書を発送させていただきます。尚、発刊日前の申込につきましては、申込時に半金の請求をし、発刊日に残金（現物とも）の請求をさせていただきます。

申し込み日 2020年 月 日

御社名

御住所 〒

御電話番号

御担当部署

御担当者

	日本語版		英語版		部数	金額
	価格 (消費税別)	刊行日	価格 (消費税別)	刊行日		
《定期刊行物》						
* 「月刊電子写真総合情報」 一電子写真に関する総合的なレポート（1986年～） 年間1,200～1,300頁	年会費：¥700,000 月会費：¥60,000	毎月 20日	\$7,000 \$600	毎月末	日 英 年 月号より ヶ月/年	
《2020年/2021年刊行予定物》						
* 2020年版[感光体マーケット総覧] (292頁) 『新たな中国市場戦略が求められる感光体業界のゆくえ』	¥500,000	2/26	\$5,200	4/17 予定	日 英	
* 2020年版緊急レポート(コロナショックと業界大規模再編) 『業界再編とコロナショックに揺れる事務機業界の 地域別メーカー別分析』	¥300,000	4/24	\$3,000	6/30 予定	日 英	
* 2020年版[ローラー系部品マーケット総覧] 『要素技術で生き残る部品業界の行方』	¥400,000	5/26 予定	\$4,000	8/28 予定	日 英	
* 2020年版[トナーマーケット総覧]	¥600,000	7/28 予定	\$6,000	10/30 予定	日 英	
(新レポート) * 2020年版[MIFマーケット総覧] 『電子写真製品の設置台数とトナー量に関する長期予測』	¥400,000	9/28 予定	\$4,000	12/25 予定	日 英	
* 2020年版[インクジェット印刷マーケット総覧]	¥500,000	11/26 予定	\$5,000	2021.2/26 予定	日 英	
* 2020年版[MFPマーケット総覧] (フルレポート) 総合分析編・PPC市場編/ プリンタ・プロダクションプリンタ・FAX市場編	¥600,000 ¥350,000/ ¥350,000	12/23 予定	— —	—		
ニューレポート * 2021年版『出力機器関連機材ハンドブック』	¥200,000	2021.1/28 予定	—	—		
《2019年刊行物》						
* 2019年版[感光体マーケット総覧] (300頁) 『中国が日本を追い越す感光体業界の実情』	¥500,000	2/22	\$5,200	4/12	日 英	
* 2019年版[インクジェット印刷マーケット総覧] (314頁) 『中国・アジアが牽引する産業用インクジェット市場の最新動向』	¥500,000	3/28	\$5,000	6/17	日 英	
* 2019年版[ローラー系部品マーケット総覧] (657頁) 『戦略転換が急務のローラー系部品業界』	¥400,000	6/26	\$4,000	8/22	日 英	
* 2019年版[トナーマーケット総覧] (591頁) 『事業の健全性が問われるトナー業界の将来性』	¥600,000	8/27	\$6,000	10/18	日 英	
* 2019年版[サプライチェーンマーケット総覧] (315頁) 『激変する事務機業界のサプライチェーン』	¥200,000	11/14	\$2,000	2020年 1/17	日 英	
* 2019年版[MFPマーケット総覧] (807頁) 『成熟市場に挑戦し続ける事務機業界の展望』 総合分析編・PPC市場編/ プリンタ・プロダクションプリンタ・FAX市場編	¥600,000 (フルレポート) ¥350,000/ ¥350,000	12/12	— —	—		
《その他の刊行物》						
* 2014年版[企業便覧シリーズ] (128頁) 『中国の機能部品ローカル企業100社便覧』	¥150,000	2014年 9/29	\$1,500	2014年 10/31	日 英	
* 2013年版[オフィスユーザー調査] 分析編(810頁)、写真データ(535頁) 『インドにおける500社の複写機・LBP等の写真付ユーザー実態調査』	¥800,000	2013年 9/25	—	—		